

農村計画学

2016年11月2日の出席票より

講義内容への質問: 親水

- 田舎出身だったので、水路でもよく遊びました。水路を設計するとき、遊び場になる想定はするのでしょうか。→水路のある区間を植栽等で修景すること、水路の一部を遊び場にするにはよくあります。遊びを前提とする場所は、浅くする、流量・流速を落とす、等の配慮をします。
- 日本の水路整備が欧州の中でもドイツに影響を受けたのは、何か特別な理由があるのでしょうか。→歴史的に法制度についてはドイツの影響が大きかったです。それもあって、近年の水路整備・親水整備にあたって、ドイツの情報が多かった、ドイツに学ぶ人が多かった、知った上でドイツの方式に共鳴した、というのが理由でしょうか。

講義内容への質問: 水処理

- 下水、污水处理の方法で、酸化池、酸化水路というのは初めて耳にして驚いた。ある基準値を下回ってれば、農地においては良い方法だなと感じた。実際に目にしたことがないので、行ってみたい。→農業用水施設を含め、一度現場で見ると面白いですね。
- 水の浄化池に関して、用途に応じて(汚染度合いに応じて)流し方を変える必要があると思うのですが、それらを一本化して下水道処理をした方がコストが安くなると思ったのですが、どうなのでしょう。→家庭からの排水は比較的均質なので、一本化の方が安いです。違うもの、わからないもの、とくに重金属などについては、処理系統も別仕立ての方が良いですね。混ぜるのは簡単ですが、分けるのはたいへんです。

講義内容への質問: バイオエネルギー

- 電気料金の値下げなど、住民側にメリットはありましたか。→購入する電気料金は通常価格です。しかし、売電収入がプロジェクト側に(つまり住民側に)発生します。また、温水供給によって暖房費が削減できています。
- 売電など、余剰電力を活かす取り組み・制度はありますか。→日本の固定価格買い取り制度は、ドイツ等に見習ったものです。
- 地域単位のバイオエネルギーへの意識の高さは、どのような条件によって変わるのか、考えてみたいと思った。
- ドイツは、バイオエネルギーの利用が発達していると感じました。

講義内容への質問:有機性資源

- 堆肥を無料で配っている野木町は、どのように採算を取っているのでしょうか。→堆肥の原料は生ゴミです。ゴミ収集に関して住民側がどのくらい負担するかは様々です。横浜市はレジ袋で出しても問題ないので、実質無料です。しかし自治体によっては、指定のゴミ袋、指定のポリバケツでないとダメなところがあります。これらは有料です。そして、ゴミ「収集」については、生ゴミは無料です。粗大ゴミは(原価よりは安いけれども)有料です。いずれにしても、ゴミ収集は、赤字経営です。別の言い方をすれば「行政サービス」です。…長々と書きましたが、無料の堆肥は、行政サービスと言えるのでは。
- 生ゴミの活用で一番難しいことは分別を徹底して貰うことですか？→分別と、それをある「一定の時間帯」に出すことですね。
- 日本国内で有機性資源のような再利用が成されているのが、興味深かった。

講義内容への質問:事業の効果

- 環境修復、資源再利用などの取り組みについてはよくわかったが、その前後でどの程度変化があり効果が現れたのか、データをもっと見たい。→すべての事業地区で、環境修復後のデータをきちんと取っているわけではありません。紹介した水路では、生き物調査を継続的に行い、効果が確認されました。魚道を付けた水田で、植生が増えた、魚類が増えたというデータはあります。しかし、事業前のデータはそれほどないのが現状です。

講義内容への質問:有機性資源(2)

- 木質チップの利用では、どんなことが難しいですか？→規模と持続性ですね。温室のボイラを紹介しましたが、家庭用のストーブ等を含め、ある態度の規模がないと続きません。真庭市では十分な規模があるので続いています。
- 柏キャンパスの近くにも「里山」があり、この木を有効利用したいとの希望が、住民、NPOにあります。薪ストーブユーザーの数が、見込めず、プロジェクトには至っていません。

講義の感想ほか

- いまだに授業の意図が掴めず、活かし方がわかりません。「教養として田舎について知る授業」という捉え方でよろしいのでしょうか。→(農村)計画学は、個々の技法を理解した上での総合的計画学です。ですので、課題、制度、事例、効果、成功の理由、不成功(不採択、未実施)の理由を考えることが中心です。農村計画論の個別要素としては、数式や化学式の出る部分もありますが、そういうのがないと、学問的でない、勉強している気分にならないという気持ちはわかります。
- レポートを書くときに、農村と言ってもどこを選んだら良いかとても迷ったので、授業の最初に見せていただいたスライドをアップロードしていただきたいです。→前回に書きましたが、容量がいっぱいのため一度下ろしました。対策を検討中です。(注:この質問者は、期限内にレポートを出していました。)

付:10/26の講義内容への質問のつづき

- 生活圏の事例の図は面白い。もう少し掘り下げて調べてみたい。 →前回:出典はちょっと待って下さい。
→その後:掲載されていた書籍に示された出典にあたってみたところ、別のものでした。出典の掲載ミスです。少し先になりますが、生活圏のよくわかっている何人かの人に聞いてみます。